

SAFETY

Lexus Safety System +

人・クルマ・交通環境の「三位一体の取り組み」とともに、実際の事故から学び、改善を繰り返す「実安全の追求」の推進から生まれた予防安全システムが「Lexus Safety System +」です。2種類のセンサー（ミリ波レーダーと単眼カメラ）による高い認識性能と信頼性、事故低減効果の高い予防安全装備をパッケージ化しました。そして、これまで取り組んできた安全システムの連携を進化させることで、レクサスは、皆さまに高い安心感をご提供します。



ADVANCED SAFETY [Lexus Safety System +]

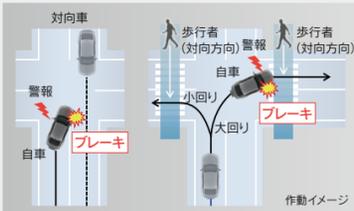
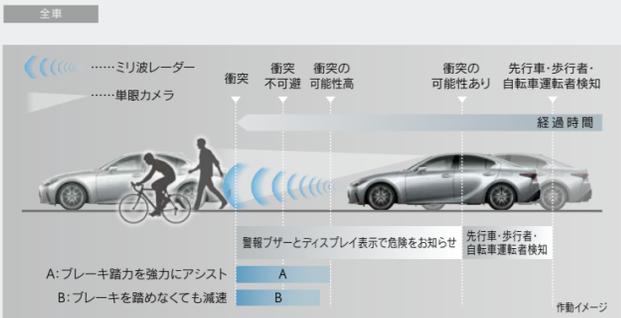
ドライバーに安心感をもたらす、予防安全システムをパッケージ

交差点と緊急時でのサポートが進化した

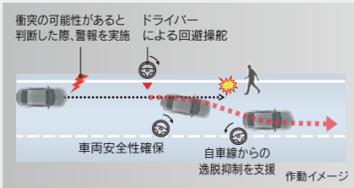
プリクラッシュセーフティ(歩行者(昼夜)・自転車運転者(昼))

検知機能付衝突回避支援タイプ(ミリ波レーダー＋単眼カメラ方式)

ミリ波レーダーの検知範囲を広角化、カメラの性能を向上させたことで、夜間の歩行者と昼間の自転車運転者の検知を可能にしました。衝突の可能性が高いとシステムが判断した場合、ブザーとディスプレイで危険をお知らせ。ブレーキを踏めた場合はブレーキ踏力をアシスト、踏めなかった場合はブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。なお、対向車に対しては減速して衝突時の速度低減をサポートします。



交差点右左折支援
交差点右折時に直進してくる対向車および右左折時に対向方向から横断してくる歩行者をミリ波レーダーと単眼カメラで検出。ブザーと表示で衝突の可能性を知らせ、その後プリクラッシュブレーキを作動。衝突回避または被害軽減をサポートします(自転車運転者は検知しません)。



緊急時操舵支援
歩行者、自転車運転者、車両と衝突する可能性が高く、自車線内に回避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、ドライバーの回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。

※回避するための十分なスペースがない、また、回避先物があるとシステムが判断した場合には作動しません。

低速時加速抑制

低速時の自車の直前にいる歩行者、自転車運転者、車両をミリ波レーダーと単眼カメラで認識。前方に対象物がある状態で、停車または徐行状態からアクセルペダルが必要以上に強く踏み込まれた場合には、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制し、衝突回避または被害軽減をサポートします。

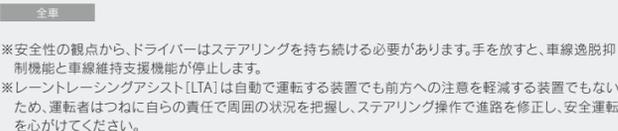
※本機能はパーキングサポートブレーキ(静止物)の対象物である壁などに対しては作動しないシステムで、パーキングサポートブレーキ(静止物)の代替機能となるシステムではありません。

※プリクラッシュブレーキは、対車両の場合は自車速度約10km/h以上、対歩行者、自転車運転者の場合は自車速度約10km/h～80km/hで作動します。また、本機能はドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態、天候状態およびドライバーの操作状態、歩行者や自転車運転者の状態等によっては、作動しない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。本機能を過信せず、必ずドライバーが責任を持って運転してください。数値は社内測定値。

車線をトレースして運転支援する

レーントレーシングアシスト[LTA]

高速道路や自動車専用道路を走行中、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)の作動時に、車線維持に必要なステアリング操作支援を行うことでドライバーの運転負荷を軽減します。また、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)を使用していない場合でも、車線逸脱警報機能、車線逸脱抑制機能は作動可能です。



※安全性の観点から、ドライバーはステアリングを継続する必要があります。手を放すと、車線逸脱抑制機能と車線維持支援機能が停止します。
※レーントレーシングアシスト[LTA]は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないので、運転者自身に自らの責任で周囲の状況把握し、ステアリング操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

※車線逸脱警報機能(車線維持支援機能中は除く)、車線逸脱抑制機能は約50km/h以上で作動します。※例えば次のような条件下では、車線維持支援機能、車線逸脱警報機能、車線逸脱抑制機能が正常に作動しない場合があるため、使用しないでください。●車線と見間違えるような路側構造物がある時(ガードレール、反射ポールなど) ●分合流付近を走行中 ●急カーブを走行中 ●雨・雪・霧などで車線が見えにくい時 など

※例えば次のような条件下ではシステムの作動条件が満たされず車線維持支援機能、車線逸脱警報機能、車線逸脱抑制機能の作動をキャンセルする場合があります。●車線を見失った時 ●ドライバーの追加運転操作を検知した時(ステアリング、ブレーキ、アクセルの操作など) など
※車線逸脱警報機能、車線逸脱抑制機能は走路の境界がはっきり見えない場合、または直線的ではない場合には正常に作動しない場合があります。

※故意に車線から逸脱して走行するなど、システムの作動を確認する行為はいへん危険です。絶対におやめください。

※車線維持支援機能が先行車に追従する支援を行う場合、先行車が車線を右、または左に片寄って走行、または車線変更した時は、先行車の位置に合わせて自車も片寄って走行し、レーンをはみ出すおそれがあります。先行車がふらついた時は、自車もふらついて走行し、レーンをはみ出すおそれがあります。



車線維持支援機能
緩やかなカーブでの支援に加え、滑らかにふらつき少なくレーン中央をキープする走行が可能で、カメラ認識技術の向上により、レーントレース性能が大幅に向上しました。●白(黄)線が検出困難な場合でも先行車に追従する支援を行います。また、曲がりきれず車線を逸脱する可能性がある場合には、表示による注意喚起を行い、ドライバーのステアリング操作を促します。 ※状況によっては注意喚起が表示されない場合があります。

車線逸脱警報機能/車線逸脱抑制機能
車線から逸脱するおそれがある場合にマルチインフォメーションディスプレイへの表示、およびステアリングの振動または警報ブザーにより警告するとともに、車線からの逸脱を避けるためのステアリング操作を支援します。さらに、車線の判断については、白線だけでなくアスファルトと草・土・縁石などの境界から逸脱すると判定した場合も支援します。

車線内の停車と救命要請を自動で行う

ドライバー異常時対応システム

レーントレーシングアシスト[LTA]制御中にドライバーの無操作状態が継続している場合、音と表示と減速による警告でドライバーに操作を促すほか、ハザードとホーンで車外に異常を報知しながら自車線内に減速停車し、自損・加害事故の回避・事故被害低減を支援します。停車後は、ドア解錠やヘルプネット[®]*自動接続による救命要請も行い、早期のドライバー救命・救護に寄与します。

*ヘルプネットはG-Linkに含まれるサービスです。G-Linkのご利用には別途契約が必要となります。詳しくは54ページをご覧ください。
※ドライバー異常時対応システムは自動車専用道路(一部を除く)を約50km/h以上で走行している場合に作動します。体調異常を直接検知できるわけではないため、システムが正常な運転操作と判定した場合は作動しません。

車間距離を保ちながら追従走行する

レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)

ミリ波レーダーと単眼カメラを使って先行車を認識し、車速に応じた車間距離を保つことで追従走行を支援します。先行車が停止したときは、自車も停止して停止状態を保持。先行車が発進したときは、ドライバーの操作によって発進し、追従走行を再開します。高速道路の渋滞走行時など停止発進を繰り返すシーンで、ドライバーの運転負荷を大幅に軽減します。ミリ波レーダーの検知角度広角化と、単眼カメラによる広い前方認識範囲により、特に前方車両に対する割り込み検知にすぐれた認識性能を確保しています。また、約80km/h以上で、ウインカー操作をした際は、遅い先行車がいても、追い越しに向け徐々に加速を開始し、スムーズな走行が行えるようにしました。さらに、レーダークルーズコントロールで走行中、システムが必要と判断した場合、ステアリングの切り始めて速度抑制を開始するカーブ速度抑制機能を装備しています。

※本機能は、ドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用にできない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

ロー・ハイビームを自動で切り替える

オートマチックハイビーム[AHB]

夜間走行時に、周囲の明かりの状況によりハイビームで走行可能と判断した場合、ロービームをハイビームに自動的に切り替え、前方視界確保をアシスト。先行車や対向車などを検出するとハイビームからロービームへ切り替え、ドライバーの切り替え忘れを防ぐとともに手動操作の煩わしさを軽減。スイッチ操作でオフにすることもできます。

※自車速度約30km/h以上で作動します。 ※ロー・ハイビームの切り替え自動制御には状況により限界があります。運転時はつねに周囲の状況に注意し、必要に応じて手動で切り替えるなど、安全運転を心がけてください。

Lexus Safety System + を安全にお使いいただく上での留意事項説明
Lexus Safety System +は予防安全パッケージです。ご契約に際し、Lexus Safety System +、およびその各システムを安全にお使いいただくための留意事項についてご説明いたします。

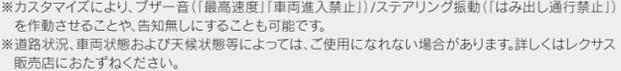
ご使用になる際のお客さまへのお願い	<ul style="list-style-type: none">●運転者には安全運転の義務があります。運転者は各システムを過信せず、つねに自らの責任で周囲の状況把握し、ご自身の操作で安全を確保してください。●各システムに頼ったり、安全を委ねる運転をされると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。●車両姿勢が変化する架装・改造や、各システムのカメラ・センサーを遮るような架装・改造を行うと、各システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。●ご使用の前には、あらかじめ取扱説明書で各システムの特徴・操作方法を必ずご確認ください。
-------------------	--

道路標識を表示し告知も行う

ロードサインアシスト[RSA]

単眼カメラで認識した「最高速度」「はみ出し通行禁止」「車両進入禁止」「一時停止」の道路標識を、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。道路標識の見落としを減らし、安全運転を促します。また、単眼カメラによって認識された「最高速度」「はみ出し通行禁止」「車両進入禁止」の道路標識に対し、違反動作を行っている

とシステムが判断した場合、表示の反転や点滅でドライバーに告知します。



※カスタマイズにより、ブザー音(「最高速度」「車両進入禁止」)/ステアリング振動(「はみ出し通行禁止」)を作動させることや、告知無しにすることも可能です。

※道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用にできない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

先行車の発進を知らせる

(付帯機能)先行車発進告知機能[TMN]

先行車の動きをミリ波レーダーと単眼カメラで検出し、自車が先行車に続いて停止後、先行車が発進し一定距離を走行してもなお自車が停止し続けている場合に、マルチインフォメーションディスプレイ表示、およびブザーで先行車の発進をお知らせします。

※シフトポジションが「P」「R」以外でブレーキペダルを踏んで停車している時に作動します。シフトポジションが「N」の時、またはレーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)機能で自車が停止した場合、さらにシフトポジションが「D」の時にブレーキホールドを使用した場合は、ブレーキペダルを踏んでいなくても作動します。
※先行車が約4m以上進んでも自車が止まったままだとシステムが判断した場合に作動します。なお、機能のON/OFFおよび通知タイミングの変更が可能です。詳しくはレクサス販売店におたずねください。



機能説明
情報はこちら

標準装備

※装備類の詳しい設定につきましては、主要装備一覧表でご確認ください。

OTHER SAFETY

安心感につながる先進安全テクノロジー

接触事故の低減に寄与する駐車支援システム

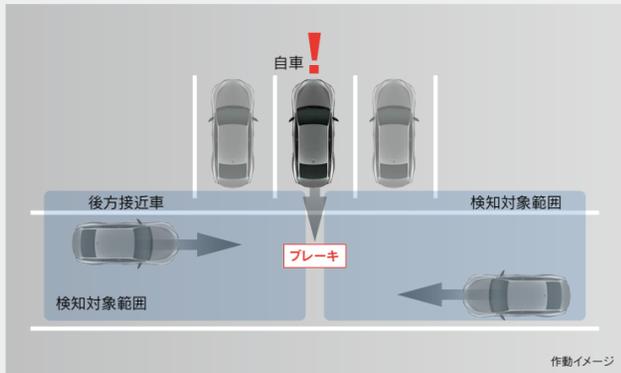
パーキングサポートブレーキ[PKSB]

■パーキングサポートブレーキ(静止物)[PKSB]



低速走行時に壁などの静止物までの距離と危険度を、マルチインフォメーションディスプレイおよびフロント・リヤブザーなどでお知らせします。低速走行時に壁などの静止物と衝突する可能性が高いと判断した場合、衝突被害軽減ブレーキをかけます。

■パーキングサポートブレーキ(後方接近車両)[PKSB]



後退して出庫する際、自車後側方から接近する車両の存在を、ドアミラー、10.3インチタッチワイドディスプレイ、およびリヤブザーでお知らせします。自車後側方から接近する車両と衝突する可能性が高いと判断した場合、衝突被害軽減ブレーキをかけます。

※本機能は、ドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態、天候状態およびドライバーの操作状態、歩行者の状態等によっては、作動しない場合があります。本機能を過信せず、必ずドライバーが責任を持って運転してください。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

※パーキングサポートブレーキ[PKSB]が作動した場合でもブレーキ制御は2秒で解除されるため、そのまま前進・後退できます。また、ブレーキペダルを踏んでもブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進・後退できます。

※字光式ナンバープレートは装着できません。

車両周辺の安全確認をサポートする

パノラミックビューモニター

車両の前後左右に搭載したカメラから取り込んだ映像を合成し、車両を上から見たような映像を10.3インチタッチワイドディスプレイに表示。運転席から目視しにくい車両周囲の状況をリアルタイムで確認できます。

IS500	"F SPORT Mode Black IV"	"version L"	"F SPORT"	IS300h	IS300
-------	-------------------------	-------------	-----------	--------	-------

※パーキングサポートブレーキ[PKSB]協調表示を行い、画面表示で注意喚起します。
※画面に映る人や障害物は実際の位置や距離と異なります。映像を過信せず、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら運転してください。なお、字光式ナンバープレートは装着できません。



ブラインドスポットモニター [BSM] / 後方車両への接近警報

ブラインドスポットモニター[BSM]は、走行中、ドアミラーでは確認しにくい後側方エリアに存在する車両に加えて、隣接する車線の最大約60m後方までモニターし、急接近してくる車両も検知します。車両を検知するとドアミラー内のインジケーターが点灯、車両を検知した状態でウインカーを操作するとインジケーターが点滅し、より注意を喚起します。また、後方車両への接近警報は、後方車両から衝突される可能性が高いと判断した場合、ハザードランプを高速点滅させて、後方車両に注意喚起します。

※検知対象の目安となる大きさは、小型の二輪車よりも大きな車両となります。一部の特殊な道路状況等では、静止物に対してインジケーターが点灯する場合があります。

※道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用になれない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

※ブラインドスポットモニター[BSM]はあくまで運転補助機能です。本機能を過信せず、運転に際してはドライバーご自身で周囲の安全状況を直接確認してください。詳しくはレクサス販売店におたずねください。



ISは「セーフティ・サポートカーS<ワイド>」です。

セーフティ・サポートカーS<ワイド>(サボカーS<ワイド>)は、政府が交通事故防止対策の一環として普及啓発しているものです。衝突被害軽減ブレーキ、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、車線逸脱警報、先進ライトなどの安全運転を支援する装置を搭載し、高齢者を含むすべてのドライバーの安全をサポートします。

■Lexus Safety System + /パーキングサポートブレーキ [PKSB]

ドライブスタートコントロール

シフト操作時における急発進・急加速を抑制し、衝突時の被害軽減に寄与します。例えば、後退時に衝突して慌てたドライバーが、アクセルを踏み込んだままシフトを「R」から「D」へ変更した際、表示で注意を促すとともに、エンジン/ハイブリッドシステム出力を抑えます。



ヒルスタートアシストコントロール

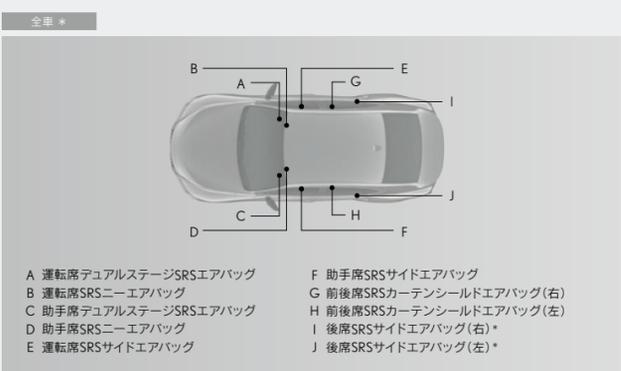
坂道発進時にブレーキからアクセルに踏みかえる際の車両の後退を緩和します。坂道で停車すると車両に搭載されたセンサーが坂道であることを検知。ドライバーがブレーキを踏むと作動し、約2秒間ブレーキ油圧を保持して車両のずり落ちを緩和します。



※安全装置の各機能の作動には、速度や対象物等の条件があります。また、各機能はドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態、天候等により作動しない場合があります。詳しくは、取扱説明書、またはlexus.jpをご覧ください。詳しくは、レクサス販売店におたずねください。

※安全装置はドライバーの安全運転を支援するためのものです。機能を過信せず、安全運転を心がけてください。

SRSエアバッグシステム



※後席SRSサイドエアバッグ(左右)は、IS500" F SPORT Performance"、IS300h" version L" / " F SPORT Mode Black IV"、IS300" version L" / " F SPORT Mode Black IV"に標準装備。IS300h、IS300iにメーカーオプション、IS300h" F SPORT"、IS300" F SPORT"は、" F SPORT Performance"、" F SPORT"本革スポーツシート(運転席ポジションメモリー/運転席・助手席ベンチレーション機能付)を選択した場合、後席SRSサイドエアバッグ、オート電動格納式ドアミラー(広角・運転席自動防眩・鏡面リバーズ運動ラストメモリー付チルトダウン・メモリー・ヒーター付)、パワウィンドウアクセスシステム(運転席オートスライドアウェイ&リターンメモリー機能付)が同時装着となります。" F SPORT" L textスポーツシートを選択した場合は、後席SRSサイドエアバッグを単独で選択することもできます。 ※SRSエアバッグシステムは衝突時の条件によっては作動しない場合があります。SRSエアバッグはあくまでシートベルトを補助する装置ですので必ずシートベルトをご着用ください。

ポップアップフード

フロントバンパー内のセンサーが歩行者と同等以上の衝撃を検知すると、瞬時にフードを持ち上げて衝撃吸収スペースを確保。歩行者の頭部への衝撃緩和に寄与します。また、プリクラッシュセーフティが歩行者や自転車運転者と衝突する可能性が高いと判断した場合、ポップアップフード作動の準備を行う、ポップアップフードシステム予防連携機能を設定しています。



※衝突の条件によっては作動しない場合があります。ポップアップフードが作動した場合には、バンパーやフロントフード等の損傷有無にかかわらず、ポップアップアクチュエーター等の交換・修理が必要となります。なお、字光式ナンバープレートおよびフロントナンバーフレームは装着できません(ただし、純正用品のフロントナンバーフレームは装着できます)。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

■ 標準装備 □ メーカーオプション

※装備類の詳細い設定につきましては、主要装備一覧表でご確認ください。